

結 果 の 考 察

＜保護者アンケートより＞

- ・最も評価の高かった項目は、児童のいろいろな行事への取組である。コロナ禍での実施であるため、感染症対策を十分に行うことによって、保護者の方々のご理解を得ることができたためと考えられる。中止や規模を縮小した行事があったものの、子供たちは、校外学習等に一生懸命に取り組むことができた。また、1学期の授業参観を実施することができ、児童の頑張っている姿を見る機会を設けることができたことは良かったと思う。
- ・次に評価の高かった項目は安全管理、健康管理である。新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、様々な学校での取り組みを行ったことや授業参観において入場者の健康チェックを行ったこと、そして児童への日頃の健康管理・指導が評価されたと考える。
- ・最も評価が低かった項目は、児童の読書活動への取組である。学校では朝の読書活動を取り入れたり、定期的に図書室を利用したりしているが、家庭で日常的に読書を行う児童は少ない状況である。しかし、昨年度に比べると改善傾向にあり、図書委員会の活動などを通して、本の紹介を活発に行うことにより、読書に関心がもてるようにしていきたい。
- ・次に評価の低かった項目は、児童の英語学習への取組である。昨年度よりも評価は上がっているものの、依然として低い状態である。英語が3・4年生で必修化、5・6年生では教科化されたことによると考えられる。楽しくゲーム感覚で行われていた授業に、英語を「書くこと」などが加わり、難しくなったことに起因していると考えられる。英語の免許をもつ教員が6年生の授業を担当したり、ALT（英語指導助手）を活用したりして、充実した授業が行われるようにしていきたい。
- ・また、昨年度より大幅に評価が下がっている項目は、家庭・地域との連携・協力である。コロナ禍において、地域や保護者と連携・協力する機会が中止となっていることが原因である。できる限り中止とせず、工夫しながら実施していきたい。

＜児童アンケートより＞

- ・全体的に評価は高いが、その中でも安全指導に対する教師の取組への評価が最も高く、避難訓練や安全な登下校に関する指導を通して、児童一人一人の安全に対する意識は高くなっている。引き続き、児童を取り巻く環境の整備や安全指導に取り組んでいきたい。
- ・続いて高い項目は、先生は分かりやすく勉強を教えてくれるという項目である。教師の学習指導に対する意識は高く、ICTを活用した授業の工夫を行ってきた結果と考えられる。
- ・一方で、家庭学習への取組に関する数値が最も低くなっており、家庭学習の習慣化が十分に図れていないと推察できる。しかし、わずかではあるが、昨年度の数値よりは改善が見られ、教師による働きかけや家庭学習の手引きの配付、一人一台端末の活用などが好影響を及ぼしていると考えられる。
- ・また、いじめはなく教室は安心できる場所であるという項目の数値が低かった。いじめの認知件数は減っているため、何らかの原因で教室が安心できる場所ではなくなってしまうと考えられる。いじめ防止に向けて引き続き十分な取組を行っていくとともに、注意深く子供たちを観察していきたい。

＜職員アンケートより＞

- ・高評価だった項目は、あいさつや基本的なマナーの指導、いじめのない学級づくり、保護者や地域への情報発信などの項目である。いじめのない学級づくりの項目では、教師の評価は高いが、児童や保護者の評価はあまり高くなく、更なる工夫や取り組みが必要である。
- ・学習に関する各項目の評価において、「よくあてはまる」と回答している教員が全ての項目で減少している。G I G Aスクール構想における一人一台端末の導入により、工夫して授業を行っているものの、今年度よりの導入のため、一人一台端末を活用した授業にまだ慣れていないことに起因している。
- ・最も評価が低かった項目は、家庭学習に関する項目である。児童は、宿題は提出するものの、自主的な学習にまでは繋がっておらず、さらに、意欲的に自主学習に取り組ませていく方法について工夫をしていく必要がある。家庭学習の定着に関する評価は保護者・児童・教職員ともに低くなっており、今後の重点課題として取り組む必要がある。
- ・次いで、子供に応じた学習の手助けを行っているという項目が低評価であった。コロナ禍において一斉に授業を行うことが多くなったり、一人一台端末を活用して行う個に応じた学習の成果が思うように上がらなかったりしたためと考えられる。今後、G I G Aスクール構想における一人一台端末の活用方法についての研修を進めていく必要がある。